

予 算 要 求 資 料

令和 7 年度 3 月 補正 予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工 鋳業振興費

事 業 名 【新】 伝統工芸品産業価値向上研修事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 地域産業課 伝統産業振興係 電話番号：058-272-1111(内3786)

E-mail：c11355@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 2,312 千円 (現計予算額：0 千円)

<財源内訳>

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|------------|-------|------------|------------|------------|------------|-----|-----|-----|------------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使用料 手数料 | 財 産 収 入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 現 計 予算額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 補 正 要求額 | 2,312 | 1,156 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,156 |
| 決定額 | | | | | | | | | |

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

生活様式の変化に伴う工芸品市場の縮小が続く一方、急速に高まるDX化により、各事業者がデジタル技術を活用し、販路開拓に取り組むとともに、伝統工芸品の魅力を広く発信していく必要がある。

しかし、伝統工芸品の従事者の多くは高齢化でデジタルに関する知識が乏しく、SNS等を活用した情報発信が技術的に困難であるという課題がある。

そこで、令和4年度～7年度に県内の伝統工芸品産業の従事者等を対象としたデジタルリテラシー研修 (SNS活用、ECサイト制作等) を実施し、デジタルに関する基礎知識の底上げを行った。

次のステップとして、トレンドや多様化するニーズを的確に把握し、現代の生活に合った商品開発や商品への付加価値 (工芸品の背景やストーリー) の付け方等、自社ブランド向上に繋がる研修を実施し、販売戦略立案を支援することで昨年度までに学んだデジタルを活用した発信との相乗効果を狙う。

(2) 事業内容

伝統工芸品産業に携わる職人等を対象に自社ブランド力向上に繋がる研修を実施し、販売戦略立案を支援し、伝統工芸品産業の価値向上を促進し、振興を図る。

(3) 県負担・補助率の考え方

本県のモノづくりの原点である伝統的工芸品等の価値を高める取組みとして県の負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|------|-------|---------|
| 委託料 | 2,312 | 研修実施 |
| 合計 | 2,312 | |

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

3 地域にあふれる魅力と活力づくり

(2) 次世代を見据えた産業の振興

③ 県内産業の活力の強化と新事業展開の推進

(2) 国・他県の状況

他県においても、県内伝統的工芸品への新商品開発や販路拡大のための支援事業を実施。

(3) 後年度の財政負担

継続的な需要の確保を支援していくことが必要であり、毎年同額程度の経費負担を見込んでいるが、今後の社会・経済情勢の変化等により判断する。

(4) 事業主体及びその妥当性

本県の伝統的工芸品や郷土工芸品は伝統や文化を他県や外国へアピールする象徴であり、失ってはならない貴重な宝である。県が事業主体となり、各工芸品の価値を高めるための支援を実施することで伝統工芸品産業の振興を図ることは妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

様々な研修を通じて知見を深め、技術を伝承しながら現在のニーズを把握した販売戦略立案を支援することで、自社ブランド力の向上及び伝統工芸品産業のイメージアップを図り、産業全体の活性化を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名 | 事業開始前 (R) | R6年度 実績 | R7年度 目標 | R8年度 目標 | 終期目標 (R) | |
|----------------|--------------|------------|------------|------------|-------------|--|
| | | | | | 達成率 | |
| ①定員に対する参加者数の割合 | / | — | — | 100% | 100% | |

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

| | |
|-------|-----------------------------|
| 令和4年度 | 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ % |
| 令和5年度 | 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ % |
| 令和6年度 | 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ % |

2 事業の評価と課題

伝統工芸品産業に携わる職人等を対象に自社ブランド力向上に

(事業の評価)

| | |
|---|---|
| ・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない | |
| (評価) 3 | 事業者の大半が中小零細事業者であり、財政基盤がぜい弱であるため、継続した業界支援が必要である。 |
| ・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない | |
| (評価) | |
| ・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている | |
| (評価) | |

(今後の課題)

| |
|--|
| ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 人々の生活スタイルや嗜好は常に変化しており、都度その流れを把握するとともに、継承した技術と融合させていくことが必要。 |
|--|

(次年度の方角性)

| |
|---|
| ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 伝統工芸品は、現在のモノづくりの原点であるとともに、本県の伝統や文化を他県や外国へアピールする象徴であり、失ってはならない本県の貴重な宝である。工芸品の背景やストーリーといった付加価値を付け、その魅力をより広くPRできるよう支援を行う。 |
|---|